

令和7年度看取り介護実施報告

(1)看取り介護実施状況

①看取り介護実施件数

・R7年度退所 24名 医療希望 1名・病院で死亡 2名・看取り介護にて死亡 21名)

②R6年度看取り介護を実施した入所者

	性別	年齢	介護度	入所年月日	看取り開始日	死亡日
1	女	102	4	2024/3/14	2024/9/12	2025/4/10
2	女	91	3	2024/3/5	2025/1/20	2025/4/17
3	男	84	5	2019/3/13	2025/1/14	2025/4/25
4	女	95	4	2022/3/18	2025/2/13	2025/5/5
5	女	87	5	2016/11/3	2021/5/29	2025/5/28
6	女	97	5	2011/12/22	2022/10/11	2025/6/6
7	女	97	5	2020/2/15	2022/6/20	2025/6/20
8	女	96	5	2014/6/2	2020/10/3	2025/7/30
9	男	80	5	2019/6/10	2024/9/13	2025/8/5
10	女	76	5	2025/3/4	2025/6/19	2025/8/22
11	女	100	4	2023/6/1	2024/6/15	2025/9/10
12	女	83	3	2024/11/8	2025/9/15	2025/9/25
13	女	88	5	2022/12/15	2024/3/13	2025/11/12
14	女	88	4	2024/5/20	2025/10/31	2025/11/15
15	女	85	4	2021/6/21	2025/1/9	2025/11/17
16	女	88	4	2025/9/30	2025/11/18	2025/1/23
17	女	99	5	2015/1/24	2022/5/28	2025/11/29
18	女	100	5	2021/10/27	2022/6/16	2025/12/11
19	女	84	4	2010/2/26	2024/5/24	2025/12/12
20	女	93	5	2020/3/19	2024/5/17	2026/1/17
21	女	104	4	2025/6/13	2026/8/5	2026/3/17

計 21名(男 2名・女 19名)

(2)看取り介護に対する意見

①家族の声

- ・家にいる時は、あまり外に出る人ではなかったので、施設でいろいろ参加させてもらえて良かったです。
- ・火葬後の骨がとてもしっかりしていて、食事の面でもしっかり見てくれていたのだと感じた。コロナ禍で、面会や外出が自由にできなかったのが、残念だった。
- ・最期、何度か面会できたことは良かったです。
- ・母の日に手作りカーネーションを持って面会に行こうと思っていたが、思ったより早かった。でも最期は看取ることができて良かったです。
- ・最期まで手厚く介護してくださったり、大変感謝しております。ありがとうございました。
- ・天間荘に入ることが出来て良かったです。
- ・本当にありがとうございました。看取り介護をしてもらって良かったです。本人もそう思っていると思います。

②職員の声

介護職員

- ・全身が硬くなってしまい、着替えの際などに負担を与えていたのではないかと思います。
- ・血圧が低く、居室で休まれる時間も多かったので、居室で音楽を流してあげれば良かったと思う。
- ・最後の最後まで、食べたい意欲があったが、むせることがあれば無理せず中止し下膳をしてきた。
無くなる直前「おはよう」など声を出すことが出来ていた為、本人らしかったと思う。
- ・本人の状態が落ちてきた時に、食事形態の変更について、周囲の職員より本人にとって何が良いのかを提案してくれ、本人の状態に合わせた対応ができて良かった。
- ・喘鳴がよく聞かれていたが、ギャジアップをするなどの工夫をしながら対応ができたと思う。
- ・嘔吐を繰り返しており、無理せず本人にあった介助が最後はできたことが良かったと思う。
- ・最期は嗚咽が続き、少し苦しそうだったことが、気の毒であったが、状態低下後、家族の面会が頻回にあり本人も良かったと思う。

看護職員

- ・急な状態低下であったが、家族に見守られて穏やかな最期を迎えられ、利用的な最期だったと思った。
- ・体調を崩してからが早かった。本人は食事を食べる気持ちはあったが、身体が受け付けられなかったのかなと感じた。
- ・肺炎発症までは体調が安定していて、皮膚トラブルもなく良かったが、肺炎発症から亡くなるまで経過が短く残念に思う。
- ・肺炎発症し、点滴治療開始後、医療処置が増え、対応が大変であった。両踵の水疱、皮剥けが酷い為、疼痛が強く、本人も辛かったと思う。食事が再開できたが、急変のような形でなくなってしまったことは残念であった。
- ・コロナ感染後、食思低下があり、急激に体力低下が見られ、そのまま食事摂取ができず、最期を迎えられたが、最期は穏やかに迎えられたので良かったと思う。
- ・腎機能が悪化しながらも、離床して少しでも食事が摂れていて、最期はかなり痩せてしまったが、皮膚トラブルもなく過ごせて良かった。

生活相談員

- ・亡くなる直前まで、言いたいことを言うことができ、本人らしく過ごせたのかなと思った。
日中も色々な職員が居室に行き、見送れたことが良かったと思う。
- ・なかなか面会できない家族であったが、最期はずっと付き添い、看取ってもらうことができたので本人にとっても良かったと思う。
- ・濃厚ゼリー食が甘くて嫌という訴えがあり、家族にフルーツなど用意してもらったが、食べる前に嘔吐があり、本人が希望する物を食べることなく、レベル低下してしまったことが残念であった。終末期に入ってから、子供、孫、義兄弟の面会があったが、もう少し話ができる時に面会の設定が出来た方が良かったのかと感じた。
- ・個室に移動してからの家族面会では、家族の顔を見て表情が少し変化することがあり、認識できているようで良かった。

- ・亡くなる前、体調がすごく悪い状態でなかった為、家族と面会する機会もなく亡くなってしまった。
一時より面会機会も減っていたので、もう少し面会を促しても良かったかなと感じた。

- ・コミュニケーションが取れ、最期まで周りの人と一緒に過ごすことができ、長時間ベッド上で過ごすということもなく、本人らしく過ごせたことは良かったと思う。

管理栄養士

- ・自分の思いを発言できる方だったので、食事についても思いがあったと思う。様々な要因で、実際は難しかったが、本人の要望に沿った物を提供できれば良かったかなと思う。

- ・食思があり、いつでもお腹が空いているイメージで、最後、食べられなかったことが、気の毒であったが、長く苦しまずに過ごせたのは良かった。

- ・食事に関しては、はっきりと「食べる」「食べない」を言う人だったので、難しかったと思う。
食事形態の変更のタイミングは難しかったと思うが、ぎりぎりまで、粥食、刻み菜を食べる機会が作れたことは良かったと思う。

- ・嘔吐してしまう為、食事の工夫ができなかったが、「気持ち悪いよ」という言葉が切なかった。
濃厚ゼリー食から濃厚流動食に変更したが、他の味が良かったかもしれない。

- ・体調の波があったが、最期まで、自力で食べることができたことは良かったと思う。

- ・自己主張があった方なので、自分なりに人生を楽しめて良かったと思う。
食事も自分なりに楽しめていた印象が強いです。